

# 月刊島民

中之島

Vol.46 2012 5/1

●iPadサイズ(と、ほぼ同じ)

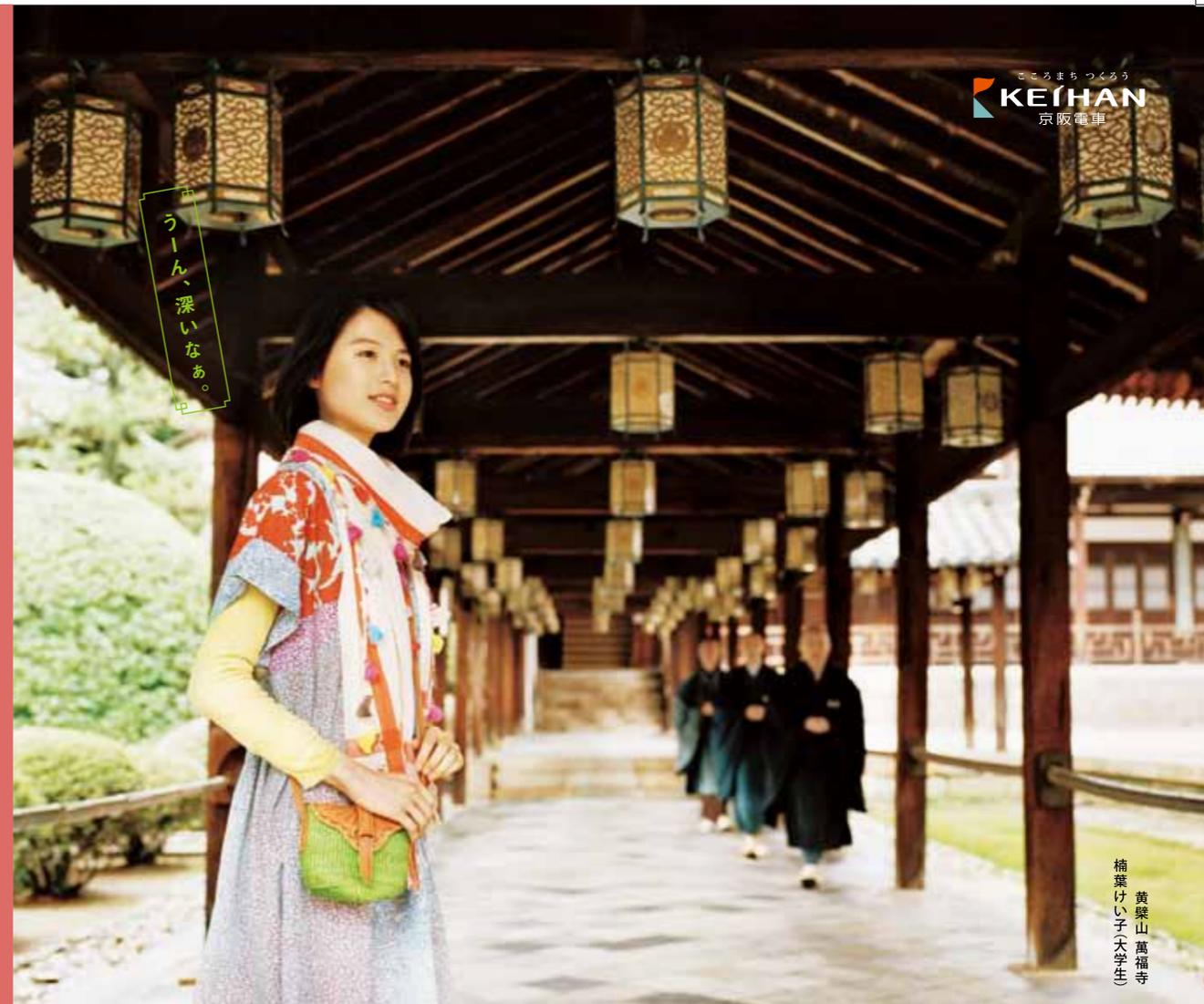
橋を渡る人の「街事情」マガジン



本を読む、  
書店をめぐる。

月刊島民中之島 46号 2012年5月1日発行 編集・発行人/江弘毅(140B) 編集発行/月刊島民プレス 〒5300004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階 定価0円 Printed in Japan

こころまちつくろい  
KEIHAN  
京阪電車



中  
うーん、深いなあ。  
中

黄檗山 萬福寺  
楠葉けい子(大学生)

## おけいはん、 たっぷり宇治線

どこか中国的な趣きがあるのは、黄檗駅近くの萬福寺。  
京阪電車の宇治線には、駅ごとに個性的な名所いろいろ。  
新しい車両で、新しい魅力に出会う旅へ、  
さあ出発です！



明治天皇 伏見桃山陵  
桃山南口下車 徒歩約15分

黄檗山 萬福寺  
黄檗駅下車 徒歩約5分

三室戸寺  
三室戸駅下車 徒歩約15分

天ヶ瀬ダム  
宇治駅下車 徒歩約50分

新型車両13000系  
運行中！



発売期間：H25.4/14 まで

「宇治・伏見 1dayチケット」発売中！

※詳しくは、京阪電車お客さまセンターへお問い合わせください。  
Tel.06-6945-4560 9時～19時(土休日は17時まで)

※詳しくは、京阪電車主要駅でチラシをご覧ください。



おけいはん人

www.okeihan.net

## 歴史好き店主の古本屋。



### 花月書房

北大江公園から土佐堀通へ続く石階段を下りると、こんなところにも古本屋が。3年前に、「良書を多くの人へ伝えたい」と、本と歴史好きの店主が開いた「花月書房」では、歴史・美術・文学の専門書から文庫・コミックまで、幅広いジャンルの品揃え。とりわけ、店主もイチオシする歴史書棚が充実している。細い道の奥というロケーションながら、駅近も手伝って、多くのサラリーマンがこの店を目掛けて立ち寄る知的空間だ。

☎06-6314-6869 11:00 AM ~ 8:00 PM  
日・祝休

## 古本好きは古本好きを知る。 moderna

大学時代から古本屋めぐりが好きだったという鎌田圭輔さん。オンライン古書店を営んでいたが、昨年10月に店舗での営業をスタートさせた。並ぶのは主に美術書、デザイン・写真に関する書籍や雑誌など。「ネット検索では自分の知っているものしか探せない。『こんな本があったのか!』と発見してもらうのが古本屋のやりがいですね」と、実店舗を始めた理由を語る。ビルの3階にあるのは、ゆっくり落ち着いて見てほしいという配慮から。広いソファなど、古本好きが気分良く過ごせる空間が整えられている。

☎06-6940-4948 12:00 PM ~ 8:00 PM  
月・金曜&第4水曜休



### この棚を見よ!

古本らしい手ざわり・質感のものばかりを集めた棚。本のセレクトは「ちょっとひねったもの。他にはあまりないものを置いています」と鎌田さん。



素材感たっぷりの棚や床の造り、ディスプレイのしかたにも、美術系の店らしいこだわりが感じられる。

**2** 年前の秋に開店した「駒鳥文庫」の村上淳一さんが、こんなことを言っていた。「店をやっていると、お客さんから教えてもらうことが多い。仕入れの時にも、お客さんの好みを考えるようになりました」。同じことを、「天牛堺書店」の店長・嶋津隆志さんも口にしていた。「古本については知らないことばかり。給料をもらいながら勉強させてもらっています」。どうやら本をめぐるコミュニケーションが、中之島のあちこちで生まれているようだ。

鎌田圭輔さんも、そんなコミュニケーションができる店を目指している。「ネットだけでやっていただけですが、いろんな人と話をしたくて。1時間くらい話をするのもありますよ」。古本屋めぐりの魅力は、自分の足で店を回り、掘り出し物を見つけるところにある。本棚から店主の個性が透けて見えれば、自然と会話が弾む。ぶらぶら歩きが気持ちよい街ならば、その楽しみも倍増することだろう。だから中之島の近くに増えてきたというわけでもないのだろうが、中之島と古本の相性が良さそうなのは間違いない。

ここ最近、中之島と周辺エリアに古本屋が増殖中。これまでの古本屋のイメージを覆す若い店主の店も多く、街を元気にするキーマンにもなっている。古本探しをしながら、中之島散策を楽しんでみよう。

取材文／江口由夏 大迫力(共に本誌)

# 新旧・個性派ぞろい 古本めぐり

## 新旧本が共存する 駅ナカ書店。 天牛堺書店 大江橋店

2008年、京阪電車中之島線開業と共にオープン。天牛堺書店と言えば、新刊と一緒に古本を多数揃えているのが本好きの間では有名だ。こちらでも通路に面してワゴンが置かれ、雑誌コーナーに囲まれてセットものが並んだり、良い感じに“新旧”が共存。探す楽しみが倍増する。古本は4日に1回の高頻度で入れ替わるため、それを知っている常連客は入れ替え初日にやって来るのだそう。「なんでもよく売れますが、民俗学や歴史など史料にするようなカタい本も売れますよ」と嶋津さん。図書館や骨董街に近い中之島らしい客層だろう。

☎06-6202-7100 10:00 AM ~ 10:00 PM  
日・祝休



中之島が古本の街に!



### この棚を見よ!

普通の書店と思いきや、棚の上には古本の全集がどっしり。両方を置くのは、「新刊が売れないと古本も売れない」という本を読む文化を守ろうとする思想から。

古本が入替わる日には、毎回、70ケースほどのダンボールが届く。開封・陳列・梱包の作業は、スタッフ総出での重労働。出張買い取りやネット販売など、古本の売り買いに力を入れている。



## 子どもも大人も集まる 本屋さん。 FOLK

絵本にマンガ、小説、エッセイなど、一見ノンジャンルの店内。27歳の若き店主・吉村祥さん曰く「僕が読んで難しいと思った本は置いていない(笑)」なのだそう。今年1月、天満から北浜へ移転。2フロアで面積は2倍になり、広い地下室ではイベントもできるようになった。新しく始めたカフェや、外からも目に着きやすいカラフルな絵本の効果もあり、お年寄りや子供連れで遊びに来るお客さんも増えた。「外のイベントにも積極的に出店して、フットワークは軽くしていきたい」と、可能性はまだ広がるようだ。

☎06-7172-5980 11:00AM ~ 8:00PM  
不定休



懐かしい学習いすは店内のあちこちに。子どもの視線に合わせた配慮が優しい。



**この棚を見よ!**  
「故意にジャンル分けしてないんです」という巨大な本棚には、ごくごく普通の実用書にまぎれてマニアックな漫画がのぞく、まるで宝物探しのような仕掛けが。



## 間口は広く、 アートから文具まで。 ON THE BOOKS

階段を上がってドアを開けると、小さなギャラリーが現れた。これも店主・米田さんの遊び心の一つ。アートやデザイン関連の本が中心ではあるが、「自分の好みだけで店を固めてしまわないように」と、気軽に手に取れる文庫本やマンガ、さらには文房具や茶器なども一緒に並ぶ。お目当ての本がなくても楽しく過ごせる空間だ。他のジャンルの本を買いに来た人にもふと手に取ってほしいという狙いはまだ道半ばのようだが、「イヤでも目につく所に置いています」というのは、アート好きのこだわりの表れでもある。

☎06-6949-5650 11:00AM ~ 9:00PM  
日曜休



実際の棚は文房具など雑貨が並ぶ。「遊べる古本屋」が、米田さんの目指すところなのだそう。



**この棚を見よ!**  
写真集の表紙だけを見れば、なかなか硬派なラインアップ。ただ、このファンシーな空間に並ぶとちょっと面白い。雑誌を選ぶノリで手に取ってみては。



**この棚を見よ!**  
ガラスケースに並べられた本たちは、どれもこれも著者の肉筆が入った貴重な美術古書。自慢のコレクションを扱う廣岡さんの手つきも、丁寧で優しい。

「美術書を鑑賞してから美術書を読み、また元の作品を見る。本のおかげで色々な角度から作品を楽しめます」と廣岡さん。



## 後世に残したい 本を伝える。 ギャラリー ヒロオカ

遠方から専門家がわざわざ足を運ぶほどの老舗がある。明治以降の美術書、特に油絵に関する本を中心に扱う廣岡正次さんは、この道70余年。棚には長い年月をかけて取捨選択を繰り返した本がぎっしりと並ぶ。修業を重ねた確かな知識を元に仕入れる本の基準は、後世に残したいと思えるかどうかだという。「この歳になると、これらの本が渡るべき人に渡ってほしいと願います。そしてまた受け継がれてほしい」と、いかにも大ベテランらしい言葉。その一方で、お客さんと美術品について語り合う廣岡さんの目は、少年のように輝いていた。

☎06-6361-4855 4:00 PM ~ 7:00 PM  
日・祝休



**この棚を見よ!**  
書籍の隣にビデオソフトも並ぶ。同じ作品や監督に関連づけたレイアウトにしている。新旧・洋邦問わず、あらゆるジャンルの映画に関する本が揃う。



お客さんからの買い取りで多いのは映画雑誌。捨てるよりは、好きな人の手に渡ってほしいという想いが伝わる。

## 進化する 映画専門古書店。 駒鳥文庫

「お客さんの顔を思い浮かべながら商売するようになりましたね」と村上淳一さん。老舗での修業を経て、大好きな映画専門の古書店を開店。関連本や雑誌はもちろん、ポスターやプロマイドなどの映画にまつわる雑貨も人気だ。オープンから1年半ほどがたった今、お客さんとのやり取りの中で、好みに合わせて店の本のラインアップも変わってきたそうだ。生まれる前の映画のことや自主上映会の話など、映画が娯楽として今よりもずっと大きな存在感を放っていた時代を知り、気持ちも新たに少しずつ進化しているようだ。

☎06-6360-4346 12:00PM ~ 7:00PM  
月曜休



### 人魚洞文庫 データベース

誰でも簡単にアクセス可。おもちゃだけでなく、巨泉が集めた全国各地の縁起物や土産物も検索して閲覧できる。  
<http://ningyodo.library.pref.osaka.jp/>



## 中之島図書館秘蔵の「人魚洞文庫」とは？

大阪府立中之島図書館の「人魚洞文庫」とは、江戸時代から明治初期にかけて活躍した大阪生まれの郷土玩具収集家・川崎巨泉が描いた、日本全国に伝わるおもちゃのスケッチを集めたもの。人魚洞の名は、集めている人形が「人魚」という言葉の響きとよく似ていることから巨泉自身が名乗ったもので、取り上げられた玩具の数は5000種以上にものぼる。郷土玩具をこよなく愛した巨泉が描く「おもちゃ絵」は、当時の好事家たちに大人気となったそうだ。

昭和17年（1942）、巨泉の肉筆による116冊もの画集が遺族から中之島図書館に寄贈された。これをきっかけとして、図書館ではおもちゃ絵の展示が企画されたほか、2006年にはすべての資料がデジタル化され、「人魚洞文庫データベース」としてネット上で鑑賞できるようにになった。サイト上では玩具のモチーフや、地域ごとに検索できる機能もあって便利。自分の趣味に没頭した知られざる大阪の趣味人の情熱を、ぜひじっくり眺めてみてほしい。

### 日本中を旅して描いた作品集。

京阪電車の駅に飾られる絵やポスターなど、京阪ユーザーならば必ず目にする風景画。実はこれらが京阪電車の社員の手によって描かれているのは以前お伝えしたとおり。その作者、シマの鉛筆コンテ画伯こと水津俊和さんの新しい作品集『鉛筆コンテが観た 日本の美景百選』が発売された。

昨年3月に朝日新聞ビル内のアサコムホールで開催された展覧会では、4000人以上が来場し、ホールの記録を塗り替えたという水津さん。中之島や京阪沿線はもちろん、今回は日本中の景勝地をめぐり歩き、北は北海道の石狩湾から南は沖縄の守礼門まで、四季折々の美しい風景が100点収録されている。

水津さんは、この作品集を作るべく、3年間にわたって集中的に日本を旅したそう。各地の自然や昔ながらの風景に触れて実感したのは、茜色・鶯色・群青色など日本の伝統色の素晴らしさだった。侘び寂びを意識した色使いと、一筆にこめられた情感が、郷愁となって絵から伝わってくる。「次はぜひ世界中を回って描きたい」と、画伯の夢は尽きない。



『鉛筆コンテが観た 日本の美景百選』  
 (京阪エージェンシー・2,800円)  
 巻頭に加えられた大阪商工会議所会頭・佐藤茂雄氏や作家・若一光司氏など、水津さんの交友関係がうかがい知れる寄稿、巻末のメイキングなども楽しい。ジュンク堂書店大阪本店・天満橋店をはじめ、京阪沿線の書店を中心に発売中。120ページ・オールカラー。問い合わせ ☎06-4792-0810

## 島民著者の新刊が続々。

### 堂島のMr.紅茶が現代を考察。



そのルーツをたどれば60年の歴史を誇る「ティーハウス・ムジカ」。数知れない島民たちに憩いの場を提供し続けてきたオーナー・堀江敏樹さんは、日本の紅茶文化普及に尽力した功労者でもある。数々の著書もある堀江さんの5年越しの新刊は『ティーブリーズ』。「お茶をください」という実にわかりやすいタイトルだ。

若い女性の過激な化粧を引き合いに、個性の強すぎるフレーバーティーを愛してみたり、ペットボトルの紅茶しか飲まないことの残念さを指摘してみたり、現代の紅茶文化についてのエッセイをまとめたもの。「本離れが進む若者でも手に取りやすいよう、薄く読みやすくしました」という堀江さんだが、当たり前美味しい紅茶を飲んでほしいという強い思いが感じられる。ティータイムに、紅茶と共にゆっくり味わってみては。



『ティーブリーズ』  
 (南船北馬舎・945円)  
 全国の書店で好評発売中。お店でも購入することができ、店内販売分には堀江さんのサイン入り！  
 ●ティーハウス ムジカ ☎06-6345-5414  
 11:00AM～10:00PM 日・祝休



## 自分の好きな本をオススメできる本棚があった！



堂島の「ジュンク堂書店大阪本店」にしかない本棚がある。大手出版社ごとに分けられた文庫が並ぶ巨大な棚と棚の間に、ひっそりとある「お客さまのお客さまによるお客さまのための本棚」。これは、文庫担当4年目の棧奈津子さんが「売るだけの一方通行じゃなくて、これだけの大きな書店なら、もっと何かができるはず」と思い立ち、お客さんと一緒に作り上げてゆく本棚を提案して実現したものだ。

この試みは2011年夏からスタート。可愛らしい手作りポストに匿名の推薦カードを投函すれば、オススメ本のポップにしてもらえ、一緒に並べてくれる。何冊も推薦してくれる常連さんの存在や、この本棚から売れてゆく本も多岐にわたって、「こまめに補充しないとなくなってしまう」というエピソードからもファンの多さがうかがえる。この棚のおかげで再び目の目を見た隠れた名作も喜んでいるにちがいない。

### ジュンク堂書店大阪本店

文庫コーナー「お客さまの棚」備え付けの小さな紙に、匿名で推薦文を書き、横に置いてある専用ポストに投函するだけ。文庫ならジャンルは不問。☎06-4799-1090 10:00 AM～9:00 PM

## NAKANOSHIMA BOOK JOURNAL

取材・文 / 江口由夏 大迫力(共に本誌)

天満橋、谷町エリアの雑貨店や飲食店に入ってみると、お店の一角に本の詰まった棚を発見。これは「まちライブラリー」という取り組みで、会員登録(無料)をしておけば、お店に声をかけ昔懐かしい貸出カードに記入するだけで本を借りられる。「まちライブラリー」は、森ビルでかつて六本木アカデミーヒルズをつくった磯井純充さんが街を盛り上げようと呼びかけ、昨年、大阪・東京で始まったもの。「誰でも手にする機会のある本を媒介に、身近な人々との触れ合いから個人が成長できた」という願いをこめ、全国へ広げるべく活動中である。



### まちライブラリー

中之島に近いところでは、[丸善ポタンギャラリー] [craft] [エキスポカフェ]なども参加。会員登録は各店で受付。毎月第3土曜日(12:00PM～6:00PM)には、ISまちライブラリーにて、お茶を飲みながら本を紹介し合うイベントも。まちライブラリーについての問い合わせはMSJ00657@nifty.com(磯井)まで。



全国で流行中。「館」を持たない図書館って？

おもしろい

早起きして  
市場へ行こう!

◎今月の授業①

【市場】



見学メニュー

- 市場の役割を紹介するDVDを鑑賞!
- 果物のセリを見学できます!
- 仲卸店舗を回り、仕入れ体験(買い物)! ...etc

Attention

※当日の8:00AMにJR野田駅に集合して下さい。  
※ヒールの高い靴など滑りやすい靴は避けましょう。  
※中学生以上が対象となります。  
※市場の見学は通常、事前申請が必要です。



2012年6月講座

「中央卸売市場 探険ツアー」

大阪の食卓を支える中央卸売市場の仕事や役割をお勉強。新鮮食材の仕入れ体験(買い物)もできます!

大阪市中央卸売市場本場は、「天下の台所」と呼ばれた大阪の、そのまた中心だった中之島の歴史を今に受け継ぐ場所。毎日、全国から旬の食材が集まり、食のプロたちが出入りする。食べものならなんでも旨いと言われる大阪の街を、そして私たちの食卓をも支える大きな存在だ。昭和6年(1931)に開設され、今もなお東京・築地、大田に次ぐ全国で3番

目の取扱高を誇る。水産部門と青果部門に分かれ、全国各地の産地から多種多様な食材を集める卸売業者が各2社、小売店やスーパーなどへ卸す仲卸業者は約360社が登録している。これらの業者がセリを行うことで、公正な値段が決まる。いわば市場は、生産者と消費者を適正に結ぶ架け橋となる存在とも言える。今回のツアーでは、そんな中央卸売市

場の役割や、そこで働く人たちの仕事ぶりがどんなものか、現地で学ぶことができる。当日は実際にセリ台に上がる体験ができるほか、仲卸業者からの仕入れ体験(お買い物)もお楽しみの一つ。ふだん当たり前前に口にしてる食材は、どんな風にして私たちの手に届けられているのか。知れば、そのありがたみが膨らむことだろう。

募集要項	「中央卸売市場 探険ツアー」	お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添え下さい。
	日時/6月2日(土) 8:30AM~11:30AM 集合時間・場所/8:00AM JR大阪環状線 野田駅 改札前 受講料/2,000円(保険料込み) 定員/50名 主催/ナカノシマ大学事務局 協力/大阪市中央卸売市場本場市場協会	〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階 「ナカノシマ大学6月講座①」受付係 FAX.06-4799-1341 ※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。 ※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。

ナカノシマ大学の最新情報は  
<http://www.nakanoshima-univ.com>

ケータイからは  
こちら→



お問い合わせ ☎06-4799-1340  
(ナカノシマ大学事務局)

「曾根崎心中」  
角田光代

(リトルモア・1,470円)

近松門左衛門の名作を、直木賞作家の角田光代がリメイク。元禄時代に実際に起こった、醤油屋の手代・徳兵衛と堂島新地の遊女・お初の心中事件を元にして描かれており、堂島や曾根崎、蜷川など中之島付近の地名が頻出。ほの暗い物語を読めば、ふだんの風景が違って見えるようになる。



大坂を  
揺るがせた  
悲恋の物語



ラストシーンは  
中之島公園

「ワーカーズ・ダイジェスト」  
津村記久子

(集英社・1,260円)

なんとなくぼつぼつしい日常を送る、名字も年齢も誕生日まで同じの男女。2人の働く場所が大阪・キタ周辺で、堂島や淀屋橋、大阪駅の風景が描かれる。物語のラストシーンに中之島公園が登場。川沿いの広場が、2人のこれからを暗示させる大事な場面の舞台に。



「堂島物語」全6巻  
富樫倫太郎

(中公文庫・680円~)

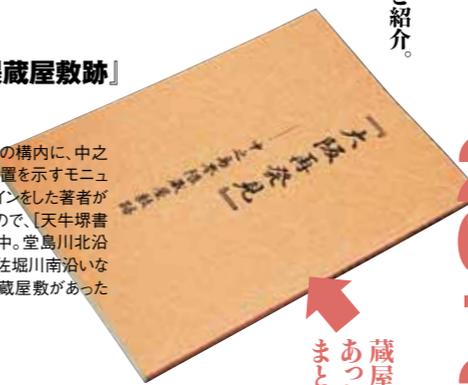
享保年間の大坂で、堂島の米問屋に奉公に入った16歳の吉左が、相場師として成長していく様子を描いた長編小説が、表紙も新たに文庫シリーズ化。青春小説としても読めるが、米相場の様子や当時の商売人たちのやり取りなどは、経済小説としても読めるとの評判。

米相場が  
少年を  
大人に変える。

「大阪再発見  
—中之島界隈蔵屋敷跡」  
岡本吉富

(牧歌舎・800円)

京阪電車大江橋駅の構内に、中之島界隈の蔵屋敷の位置を示すメニューがある。そのデザインをした著者が研究成果をまとめたもので、[天牛書店 大江橋店]で販売中。堂島川北沿い、中之島本島内、土佐堀川南沿いなど、位置別にどの藩の蔵屋敷があったかが詳述されている。



大阪の川を  
救った男の  
二代記

「淀川の治水翁  
大橋房太郎伝」小川清

(東方出版・1,575円)

ご存じ瓦町の老舗喫茶店[平岡珈琲店]のマスター・小川清さんが、ライフワークでもある「大坂の治水翁」大橋房太郎の研究をまとめたもの。25歳の時に起こった淀川の大水害をきっかけに、淀川の付け替え工事のために粉骨砕身。大橋なくして現在の中之島の姿はあり得なかった。



シマ本レビュー2012

小説から研究書まで、前回の特集以降に発売された中之島関連本を紹介。  
文(大迫力)本誌

「月刊島民」欄も  
出現!?

「約50人の本棚展」開催!

今回ご登場の[ON THE BOOKS][駒鳥文庫][FOLK]にて、一般の人から著名人まで、いろいろな人たちが作る個性的な本棚が並ぶフェアを同時開催。出展者が自分の好みに応じてリングボックスに本を詰め、それを3店に置いて販売するというもので、買うのはもちろん、誰がどんな本を出品するのか見ているだけでもきっと楽しいはず。もしかすると、出展者が空いているかもしれないので、「本を売ってみたい!」と思ったアナタは、まずは3店いずれかにお問い合わせを。  
期間/5月18日(金)~20日(日) 11:00AM~8:00PM

蔵屋敷が  
あつた時代を  
まとめた1冊

「水都大阪」物語  
再生への歴史文化的考察  
橋爪紳也

(藤原書店・2,940円)

大阪の代名詞として気軽に使っている「水都」だが、そう言った所以を資料に基づき徹底的に考察。近世以降の都市開発の流れを追うことから、産業もレジャーも風俗も、水辺と不可分に発展してきた様子が明らかに。「大阪そのものが巨大な「浜」の集積」の言葉に納得。



大阪は  
いかにして  
「水都」と  
なったか。

大坂の自由な学びの楽しさについて語る2人。プラネタリウムで投影されているのは古代中国の星座。迫力たっぷりの映像に、受講生も大満足。



2012年3月17日(土) ナカノシマ大学×大阪市立科学館コラボ講座

## 「星空トーク 江戸時代の大坂・町人科学者列伝」

@大阪市立科学館

講師/嘉数次人(大阪市立科学館学芸員)

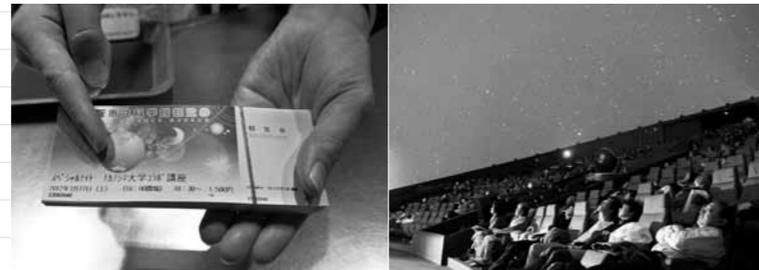
ゲスト/高島幸次(大阪大学招聘教授・大阪天満宮文化研究所)

プラネタリウムを使って寝ながら学べる、なんと豪華なコラボ講座が実現した。大阪市立科学館が誇る自慢のプラネタリウムホールをスクリーン代わりに使い、江戸時代の町人科学者たちの物語を紹介する、ナカノシマ大学初の試みである。

まずは学芸員の嘉数次人さんによる講演。目の前に大阪の夜空が映し出されると、フランス製のシートの座り心地の良さも相まって、いきなりうっとり。ところが、「こんなきれいな星空も江戸時代の人たちにとっては、恐怖の対象ではありませんでした」と、意外な指摘が。天文学が浸透する前の時代、流れ星や雷などの天文現象は、「天の神様が人間の行いを見て引き起こすもの」と考えられていた。したがって、夜空を見上げることは恐ろしいことだったのだ。

そんな恐れをもとめせず、星空に口

マンを見出した男たちがいた。それが江戸時代の大坂で学んだ町人科学者たちだった。天文学を学ぶために脱藩して九州から大坂へ移り住んだ麻田剛立をはじめとし、幕府もその才能を認め、間重富、抜群の記憶力を買われて江戸留学を勧められた橋本宗吉、科学オタクの中天游、そして適塾を開いたことで有名な緒方洪庵。それぞれのパーソナリティも愛嬌があって面白いのだが、彼らがみな師弟関



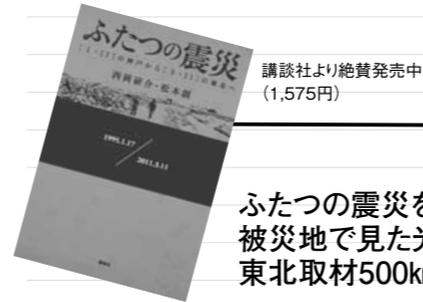
左/コラボ講座ということで、特製チケットも登場。右/シートを倒して寝転び、ゆっくり鑑賞する受講生。

係で結ばれており、<sup>レ</sup>知のリレー、が行われていたことが大きなポイント。「政治の動きに左右される江戸とは違い、さまざまな身分や境遇の人が集まっていた大坂だからこそ、誰もが自由に学べる雰囲気が生まれたのでは」と嘉数さんは指摘する。

ナカノシマ大学ではすっかりおなじみ高島幸次先生との対談に引き続き、このほど発売されたばかりの間重富の伝記『星空に魅せられた男』の朗読へ。重富が幕府から請われて新しい暦を作り上げるまでを描くストーリーに、「江戸には昌平坂学問所もあったのに、大坂から招かれるとはそれだけレベルが高かったということでしょうね」と高島先生も感心。独創的な研究者を生む背景として嘉数さんは、「江戸の天文方などに勤める役人は世襲ばかりで安住してしまっていた。一方、道楽で学問をやっている大坂の町人科学者たちは命がけ。その差でしょう」と、都市の性格の違いを挙げた。

「町人科学者や懐徳堂などに代表される自由な学びを生み出す大阪の学問風土を受け継いでいってください」という高島先生の締めくくりの言葉に、受講生全員が気合を入れ直していた。

講座のラストには、朗読された『星空に魅せられた男』の作者である鳴海風さん、そして同じ大坂町人科学者シリーズで、中天游が主人公となる『天游・蘭学の架け橋となった男』を書いた中川なをみさんも飛び入りで登場。終演後、本を買ってくれた受講生へのサイン会は、大盛況となった。



講談社より絶賛発売中!  
(1,575円)

今月は豪華  
2本立て!

## ふたつの震災を歩いた2人の記者が 被災地で見えた光景、出会った人、考えたこと。 東北取材500kmの足跡を語る。

2011年3月11日の東日本大震災は日本中に大きなショックを与えたが、関西では1995年1月17日の阪神・淡路大震災の記憶を呼び覚ました人も多かったのではないだろうか。東北の被災地取材を続けるフリーライターの西岡研介氏と松本創(本誌)もそうだった。ともに元神戸新聞記者である2人は、阪神・淡路を取材した17年前のある悔を抱えて、大津波と原発事故にすべてを奪われた広大な三陸沿岸部を訪ね歩いてきた。手分けして回った場所は青森県八戸市から福島県いわき市まで、距離にして500km。1年にわたる2人の取材記録は、『ふたつの震災—1・17の神戸から3・11の東北へ』

(講談社)というルポにまとめられ、4月に出版された。

阪神・淡路の体験を原点に取材を始めた2人だが、災害の様相、被害規模、時代背景、土地の歴史・性格に至るまで、あまりにも異なることに戸惑い、立ち止まり、悩む。彼らが被災地で見えた光景、出会った人びと、考えたこととは何だったのか。ふたつの震災から、私たちは何を学ぶべきなのだろうか。

6月のナカノシマ大学では、この2人に加え、大阪・関西の経済や都市政策に詳しい日本政策投資銀行の齊藤成人氏をゲストに迎え、震災と街、復興の姿について、大阪に引き付けつつ考える。



にしおか・けんすけ  
神戸新聞から伝説のスクランダル誌『噂の真相』へ移籍、さらに『週刊文春』『週刊現代』記者を経て、現在はフリー。スクープを連発する「トップ屋」として名高く、2008年『マンガロープ』で講談社ノンフィクション賞受賞。



まつもと・はじむ  
神戸新聞記者からフリーライター/編集者に。講談社のノンフィクション雑誌『G2』や『WEB現代ビジネス』などで人物ルポ、インタビュー、コラムなどを執筆。月刊島民プレスのメンバーでもある。

ゲストスピーカーは関西経済のスペシャリスト! 齊藤成人(さいとう・なるひと)  
日本政策投資銀行関西支店企画調査課課長。経済や地域活性化を支援する調査・分析のスペシャリスト。同銀行は被災地復興にも深く関わっている。

### ◎今月の授業②

# 【東日本大震災】

2012年6月講座

## 「大阪から見る、東日本大震災」

講師/西岡研介(フリーライター・元『噂の真相』デスク) 松本創(フリーライター・月刊島民プレス)

ゲスト/齊藤成人(日本政策投資銀行関西支店)

我々が知っておくべきことは?

募集要項	「大阪から見る、東日本大震災」	お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添え下さい。
	日時/6月20日(水) 7:00PM~8:30PM(開場6:30PM~) 会場/愛日会館 受講料/1,500円 定員/100名 主催/ナカノシマ大学事務局 協力/大阪21世紀協会	〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階 「ナカノシマ大学6月講座②」受付係 FAX.06-4799-1341 ※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。 ※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。

ナカノシマ大学の最新情報は  
<http://www.nakanoshima-univ.com>

ケータイからは  
こちら!→



お問い合わせ ☎06-4799-1340  
(ナカノシマ大学事務局)

私はもともと酒に弱く、ビール一杯ですぐ顔が赤くなるが、飲み会に参加するのは昔も今も好きである。中之島に通っていたころは、主に梅田の阪急東通商店街や、難波の千日前などで飲むことが多かった。大学の帰りに、だれ言うともなく声がかかり、5〜10人くらいで繰り出す。たいていは「百番」などの気安い酒場だが、たまにぜいたくをして、焼肉屋や法善寺横町の割烹などにも行った。

飲み会の話題はもっぱらバカ話で、のどが嘎れるほどしゃべり、窒息しそうなくらい笑う。何を話したかほとんど覚えていないが、同級生をからかったり、嘲笑する話題が多かったように思う。相手をバカにしたり、失敗をあげつらうことがいかに大きな笑いを呼ぶかは、昨今のテレビを見るまでもなくわかるだろう。しかし、アホにされるのは愛されている証拠でもあるので、笑われたほうはさらに自虐ネタを披露して、いつその笑いを取る。当人たちは楽しいが、周囲にはさぞかし迷惑だったことだろう。

この悪癖は、若気の至りではなかったようだ。お恥ずかしい話だが、数年前、中之島のリーガロイヤルホテルで卒業後何周年かの同窓会をやったとき、地下のバーで二次会が盛り上がりすぎて、ふと気づくと、まわりの客がだれもいなくなっていた。

女性たちもジーパン姿の私たちに怪訝な顔をしている。私はとっさに、「あの、ここはいくらくらいですか」と訊ねた。バーテンダーは身体をやや前方に傾け、小声で「お1人さま、小1万ほど」と言った。とてもそんな持ち合わせはない。冷や汗の噴き出る思いだったが、それを見たバーテンダーが、「もし、おまちがえでしたら、けっこうですが」と言ってくれた。Tと私は、「すみません」と頭を下げ、あきれ女性たちをしり目に逃げるように店を出た。難波あたりまで来て、もう大丈夫というところで私はTに言った。「どこが家庭的な雰囲気やねん」

「けど、さすがに粹やね、小1万やなんて」  
2人で大笑いして、予算2千円ほどの「たよし」で思い切り飲んだ。

酒に弱い私は、泥酔することは少なかったが、路上で吐いたり、最終電車を逃したりは何度もあった。電車がなくなると、いっしょに飲んでいる友だちの家に泊めてもらう。級友の1人は8人兄弟の長男で、その家に泊めてもらったときは異様な光景を目にした。翌朝、洗面所に行くと、歯ブラシが売り物のように並んでいる。食堂に行くと、ランドセルやら体操服やらが合宿所のように壁際に置いてある。小学校4年生くらいの男の子が、ランドセルを背負って、「行ってきまーす」と小走りに出ていったので、元

## 中之島ぶらぶら青春記⑥ 久坂部羊 あの一ろの飲み会

学生の飲み会にはトラブルがつきものだが、私は幸い急性アルコール中毒にもケンカにも巻き込まれなかった。ある友人は、名古屋で飲み会があるといつて出かけていき、帰ってきたら前歯が2本なくなっていた。本人は階段でこけたと言いつ張っていたが、ふだんから紫色のスリ―ピースなどを着る男だったので、あれはヤクザにやられたのだろうとみんなで噂した。トラブルというほどではないが、少々焦ったことはある。この青春記にも何度か書いた「大阪名所を漫歩する会」の盟友Tが、ガイドブックで見つけた「仏蘭西屋バー」という店に行ったときのことだ。道頓堀の近くにある老舗で、か

気がいいなと思っていると、同じ子がふたたび「行ってきまーす」と出ていった。まるでデジヤブ（既視感）、目をこすつていたら、級友が年子の兄弟やと教えてくれた。スキー場で飲むときは、家に帰らなくていいのでかなり飲んだ。あるとき、宿に帰る雪道で酔っぱらって友だちに肩車をされ、そのまま逆さまにぶら下がったら、尻ポケットに入れていた財布を落としてしまった。翌朝、気づいて青くなったが、どうしようもない。あきらめていたら、1カ月ほどして自宅に郵送されてきた。いっしょに入れてあった学生証で住所がわかったのだろう。親切な人もいるもんだと感心したが、財布の中身は抜き取られていた。

友だちの下宿で飲むこともときどきあった。コンビニなどない時代だから、食料は自分たちで調達しなければならぬ。サッカー部の友人の下宿に行ったとき、串カツを作ることにになり母親に教わった通り、材料を細かく切って串に刺し、メリケン粉をまぶして、溶き卵をくぐらせ、パン粉をつけて、1串ずつ揚げるという手の込んだやり方だったので、できあがるまでに2時間ほどかかってしまった。それで友人も私も飲む前へとへとになった。

あるときは、食材調達に市場に寄ると、マスクメロンが1個300円の大安売りだった。各自1個ずつ買い、デザートに丸かじりすると、あとで舌が荒れてたいへんだった。メロン果汁

つては芥川龍之介や谷崎潤一郎も訪れたという高尚な店である。ガイドブックには、「家庭的な雰囲気」で、予算も3千円程度とあった。学生に3千円は決して安くはないが、そんな由緒ある店ならということで、2人で出かけた。

ところが、扉を開けた瞬間、足がすくんだ。暗い照明、高級そうな調度、無人の客席。明らかに異様な雰囲気だった。それでも成り行きで中に入り、取り敢えずカウンターに座った。バーテンダーがおしほりを出してくれる。Tと顔を見合わせていると、店の奥からピンクや水色のネグリジェみたいいなドレスを着た女性が、ぱらぱらと出てきた。Tと私は思わず固まった。

には蛋白質分解酵素が含まれているからだ。

少人数で飲むときはバカ話は少なく、哲学的な議論や、人生論を闘わすこともあった。しかしそういうマジメな話題はまれで、多かったのはやはり恋愛の悩みである。

好きな女性にどう告白すればいいか、誕生日に何を贈るべきかななどの他愛のないものから、キスするにはどうしたらいいのか、強引に迫って抵抗されたらどうすべきかなど、実技編的なものもあった。

遊びのつもりでセックスしたら、相手は本気で、どうやったら逃げ切れるかと、二股をかけていたら、デート中に偶然、もう1人の彼女と鉢合わせしてしまったとか、同級生の彼女がスキーツアーで別の男とキスしてるのを見てしまったが、級友に知らせるべきかなど、当人には深刻だが、周囲には興味津々の悩みもあった。結婚直前までいっていた彼女が、急に連絡がとれなくなると、追及すると、ほかの男と外泊していたなどという笑えない話もあった。

ある級友は、新今宮の駅でホモに「好みのタイプ」と言い寄せられたと嘆いていた。私も似たような経験がある。難波の駅のトイレで用を足していたら、後ろの個室の扉が開き、妙に生白い中年男がにっこり笑って、オイデオイデをしたのだ。私は吃驚して逃げたしたが、もしあのとき個室に入っていたら、ひよっとして、めくるめく世界を垣間見られたかもしれない。そう思うと、ちよつと惜しい気がする。

くさかべよう 1955年生まれ。大阪大学医学部卒業。麻酔医、外科医、在外公館での医務官としても勤務した後、2003年『麻用身』（幻冬舎文庫）でデビュー。現代医療への提言と生きること・死ぬことについて考える契機に満ちた作風が人気を呼び『破裂』は10万部を超えるヒットに。『今月、神の手』（上下）が幻冬舎文庫で発刊されます。単行本と版元が変わり、新たにプロローグをつけてミステリー性もアップしました。安楽死希望者は必読です！（笑）



# レクチャー&対話プログラム「ラボカフェ」

読書・哲学・鉄道など、毎月リアルタイムなテーマでカフェ風ワークショップを行っている、京阪電車中之島線なにわ橋駅地下1階の「アートエリアB1」。5月のラインアップはこんな感じ。

5	土	4:00PM~ 6:00PM	ラボカフェ・スペシャル「テニススポーツ流、初心者用の関節技。」定員:25名(要事前申込) 参加費:500円 知られざる柔術の使い手、テニスコートを招き、関節技について教えてもらいます。戦うためのものではなく、間接技を通して体の仕組みを考えてみるワークショップ。運動不足な人も、女性も子供も大歓迎。
9	水	7:00PM~ 9:00PM	中之島哲学コレージュ/哲学カフェ「民主主義はどうあるべきか?」定員:50名 世界では民主化の波が巻き起こっていますが、同時に民主主義の国々ではその中身が問われています。これからの民主主義には市民による熟議や参加が必要であるという意見がある一方、それに反対する声もあります。今回はこれからの民主主義のあり方について、参加者のみなさんとじっくり話し合います。
12	土	1:00PM~ 6:00PM	ワークショップ「眠りを話す・動く・作る、1日」定員:30名程度(要事前申し込み) 材料費:500円(その他、素材持寄り) 人生の3分の1は睡眠で過ごす私たち。日常的な「眠り」を、看護とケアや哲学的な視点から捉えて(話す)。体をリラックスさせ、眠るという動作を意識して(動く)。頭とからだで得たことを元に、眠りに必要なモノ(作る)。3つの方法を通して、じっくりと「眠り」について向き合ってみませんか?
18	金	2:00PM~ 4:00PM	子カフェ「アンパンマンの魔法」定員:50名程度 子どもにまつわるいろいろなことを話し合うカフェ。今回はアンパンマンをテーマとして「なぜ子どもが突然に蒸かれ、突然に飽きてしまうのか」を軸にお話します。※お子様連れの方の参加大歓迎。授乳等にお使いいただけるスペースもご用意いたします。
25	金	7:00PM~ 9:00PM	中之島哲学コレージュ/書評カフェ「教育と国家」定員:50名 毎回様々な本を取り上げて内容を紹介しながら、自由に話し合う書評カフェ。今回は、高橋哲哉「教育と国家」(講談社現代新書)を紹介したあと、参加者全員で、教育、国家、政治の関係について考えます。
31	木	7:00PM~ 8:30PM	ダンスワークショップ「踊りにおいてよ!第2回」定員:30名程度 多彩な活動で注目されるダンサーの砂連尾さんをゲストに迎え、だれでも楽しめるダンスの魅力について体験するワークを行います。今まで気づかなかった身体の動きに関する不思議について参加者のみなさんとともに語り合います。特別な準備や才能は必要ありません。お気軽にご参加ください。

会場/アートエリアB1 参加費/5日と12日のみ有料 当日先着順・入退場自由 問い合わせ/[カフェの内容について]大阪大学コミュニケーションデザイン・センター(CSCD) ☎06-6850-6632 [場所などについて]アートエリアB1 ☎06-6226-4006 ※内容は予告なく変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。



大阪大学  
21世紀  
懐徳堂

# 大阪大学21世紀懐徳堂

●Handai-Asahi 中之島塾 大阪大学が朝日カルチャーセンターと共催しているセミナーです。

19・26	土	1:30PM~ 3:00PM	「3.11後の科学技術と市民社会の関わり方」平川秀幸(大阪大学コミュニケーションデザイン・センター・准教授) 受講料/3,150円(全2回) 東日本大震災、原発事故を経て、科学技術と社会、市民の関係は大きく変化しました。科学技術に潜むリスクの問題に関心を払ってこなかった私たち市民にも責任が問われるといえます。今後の関わりはどうか望ましいのでしょうか。
26 6/2	土	10:30PM~ 12:00PM	「人工光合成 ~石油・原子力に代わる燃料製造」福住俊一(大阪大学大学院工学研究科・教授) 受講料/3,150円(全2回) 深刻な地球温暖化が懸念され、化石燃料の枯渇も時間の問題です。本講座では人工光合成研究の現状と将来展望について述べます。

会場/大阪大学中之島センター インターネット、電話、FAXか、朝日カルチャーセンターの窓口でお申し込みください。 <http://www.asahiculture.com/nakanoshima/index.html> ☎06-6222-5224 FAX.06-6222-5221 問い合わせ/朝日カルチャーセンター(中之島) ☎06-6222-5224

●大阪大学×大阪ガス「アカデミックッキング」 「専門分野の講義」&「料理実習」で\*学問するココロ、が実践的に身につきます。

6/28	木	6:30PM~ 9:00PM	「ドクター石蔵の男のええ加減料理講座」石蔵文信(大阪大学大学院医学系研究科・准教授) これまでずっと「外の人」だった夫が定年を迎え、急に「家の中の人」になることで受ける妻側のストレスは、残念ながら、夫側の想像も及ばないほど大きいのです。定年後の長い人生。完全に頼るという感覚を捨て、お互いを家庭内で追いつめてしまわないよう、まずは食事面から男性が自立をはかってみませんか。また、男性更年期でお悩みの方は、料理という新しいチャレンジで、ストレスをうまく乗り切れるきっかけをつくりましょう。◎課題料理=一人キムチ鍋
------	---	-------------------	--

対象/男性限定(料理未経験者、若い方も大歓迎) 受講料/2,000円 定員/24名(応募者多数の場合は抽選) 会場/大阪ガスッキングスクール千里 申込受付期間/5月1日(火)~14(月) web申込受付/5月1日(火)9:00PM~ 電話受付/5月7日(月)11:00AM~ ※当落のお知らせを5月15日(火)に全員に発送。申し込み問い合わせ/大阪ガスッキングスクール千里☎06-6871-8561 <http://www.og-cookingschool.com/>

# 21世紀の懐徳堂プロジェクト 5月の時間割

ナカノシマ大学ほか、中之島周辺の「学びの場」の時間割をご紹介します。

◎21世紀の懐徳堂プロジェクトとは… ナカノシマ大学が、(財)大阪21世紀協会、大阪大学、大阪市と連携しながら、大阪の街に「市民が学ぶための場所」を広げていくためのムーブメントです。



# 大阪カルチャークラスター!!

大阪カルチャークラスター!!(OCC!!)では、大阪にあるカフェやギャラリーなどで独自に企画・運営を行っている講座・ワークショップを一堂に集め、紹介していきます。

※大阪カルチャークラスター!!(OCC!!)では、参加店舗を募集中です。お問い合わせはsingles@do.ai(common café)まで。

1	火	9:00AM~ 7:00PM	「中之島の水辺で水上さんぽ」奥谷 崇(水辺ガイド) 参加費:3,000円(レンタル一式+保険+協力金) ☆毎日開催☆年中楽しめるパドルボード/バランス感覚が身に付きエクササイズにもオススメ!	会場 E
5	土 祝	12:00PM~ 2:00PM	「ぼんどう酒店「自然派ワイン&ワンプレートランチ〜♪」」坂東 武子(ぼんどう酒店) 料金:3,800円(自然派ワイン10種類+ワンプレートランチ) 10種類の自然派ワインのレクチャーと春のワンプレートランチ〜♪ゴールデンウィークのお楽しみ〜♪	会場 J
5	土 祝	2:00PM~ 4:00PM	「初心者のための絵画塾〜クレパスってこんなにすごかったんや」柿坂万作(画廊喫茶フレインハウス) 受講料:2,500円(画材費込み) 絵の基本を学んでオイルパステル(クレパス)を使って身近な静物を描いてみましょう。エプロン、手ぬぐい持参。	会場 F
12	土	12:00PM~ 3:00PM	「マンマに習う!ポルトガル料理講習会&お食事会、」クララ・ペイショート([PORTUGALIA]シェフ) 参加費:3,500円(講習代、お食事代含む) ポルトガル料理の定番「バカリャウブラース」風!と人気の「メレンゲケーキ」を学んだ後、コース仕立てで楽しいお食事会。	会場 C
12・23	土 水	12日 1:00PM~ 3:00PM 23日 7:00PM~ 9:00PM	「三日月豆の苔玉教室「ミニバラの苔玉作り」」松本佳子(三日月豆) 参加料:3,800円(材料費+軽食付き) 母の日のプレゼントにもぴったり!ミニバラを使って愛らしい苔玉を作ります~夏に向けての防虫対策ミニ講座も。	会場 J
12	土	2:00PM~ 4:00PM	「母の日手作りフワフワアレンジメント教室」瑞季 旭濃斎(華アトリエみずき主宰) 受講料:5,000円(花材+花器+ケーキセット込み) 今年の母の日は、手作りのフワフワアレンジメントを贈ってみませんか?初心者でも大丈夫!可愛く仕上がりますよ☆	会場 I
13・16	日 水	13日 11:00AM~ 2:00PM 16日 7:00PM~ 9:30PM	「ボーボー屋・料理教室「稲荷すし・おはぎ」」中東ゆうこ(ボーボー屋) 参加料:3,800円 沖縄料理、美味しく作る秘訣公開!ゴーヤーチャンプルー・ソーメンチャンプルーなどなど~。3回編①	会場 J
13	日	A 1:00PM~ 2:30PM B 3:00PM~ 4:30PM	「TEA&BISCUIT◎紅茶教室」Yuriko(ティーコーディネーター) 受講料:各2,000円(お菓子作家HIKEのマフィン付き) 日常の紅茶やおもてなしなど、自分の好きなスタイルで紅茶を楽しみたい方に。	会場 B
19	土	2:00PM~ 4:00PM	「工作教室Coppa!!-紙袋で変身セットを作ろう!」ムラバヤシケンジ(アーティスト) 料金:1,800円 紙袋をベースに紙を切ったり、貼ったり、お面やドレスを作りますよ!	会場 D
20	日	2:00PM~ 6:00PM	「バレリーナのうさぎを作ります!」IRIIRI(にんぎょう作家) 参加費:4,200円(お茶とお菓子付き) チュチュとバレエシューズを履いた小さい座りタイプの布製うさぎ作りです。糸切りハサミをご持参ください。	会場 H
26	土	1:00PM~ 3:00PM	「陶芸入門「ごはん茶碗を作ろう!」」辻久恒(陶芸教室「ルームルーム」主宰) 料金:4,000円(材料費+お茶とおやつ) 初めての方でも大丈夫!まずは、ごはん茶碗!20色の釉薬の中から好きな色を選べます。	会場 J
27	日	10:00AM~ 11:30AM	「カフェで一緒に春の歌を歌いましょう」西影純枝(ソプラノ) 受講料:2,000円(ケーキ、コーヒー付き) ヴォイストレーニングを受けて、若葉、鯉のぼり(いらかの波と)、五月の歌、などを伸びやかに歌いましょう。	会場 G
27	日	1:00PM~ 3:00PM	「中国茶会「春風-中国茶会 新茶の魅力」」田華(高級茶芸師・国家資格) 料金:5,000円 新茶三種(緑茶・白茶・青茶)・楽しく淹れる中国茶芸・本日の茶請け・お土産茶。中国ハルビン出身の田華先生に習います。	会場 J
28	月	6:30PM~	「[なんのための仕事?]」刊行記念 西村佳哲×原田祐馬トークセッション」 参加費:1,500円(ワンドリンク付き) 働き方研究家の著者が、今デザインを通じて考える「仕事のあり方」。	会場 K
29	火	7:30PM~ 9:30PM	「石原正一のヨミすぎ!〜古今東西名作朗読会〜」石原正一(役者・演出家) 受講料:1,500円 古今東西の名作を参加者全員で物語を声にします。今回は、「ちびまる子ちゃん」を読みます。	会場 A

- A common café ☎06-6371-1800
- B 雑貨屋Biscuit café ☎090-9254-1223
- C PORTUGALIA(ポルトガル料理レストラン) ☎06-6362-6668
- D morrison(studio) ☎080-3113-4816
- E 若松の浜 ※お問合せ:アクアスタジオ ☎06-6125-0550
- F フレインハウス ☎06-6226-0107
- G カフェ アンドール 本町店 ☎06-6243-0584
- H タビエスタイル ☎06-4963-7450
- I cafe dining coccolo ☎06-6599-8441
- J ボーボー屋 ☎06-6531-7827
- K スタンダードブックスストア ☎06-6484-2239

だんじりのやり回しと日本古来の捕鯨には「危険なものを大勢で手なずける共通点がある」と、江弘毅は得意のだんじり話で会場を沸かせた。



3月23日(金) ナカノシマ大学3月講座

## 「アースダイバーでわかった、大阪のこと」

@北御堂

講師／中沢新一(明治大学野生の科学研究所所長) 江弘毅(『月刊島民』編集・発行人)

コーディネーター／釈徹宗(相愛大学教授)

2010年4月講座に登場していた江。その典型的な例として、古代の四天王寺でのある事件を挙げた。その事件とは、物部守屋との権力闘争に勝利した聖徳太子たちが、敗れた守屋の武具甲冑を土中に埋める際、「わっはっは」と声を挙げて笑ったというもの。そのことと大阪で発展した漫才などの話芸を結びつけて読み解くところに「アースダイバーの真骨頂がある」と指摘した。それを受けて中沢先生は、「<sup>うな</sup>胎衣笑い」(胎児と一緒に産まれ出てくる胎盤などを埋める際に笑いながら行うという民俗

中沢新一先生がナカノシマ大学にご登場。1年以上にわたった週刊現代での連載「大阪アースダイバー」も、今年1月に堂々完結。否が応でも注目が集まる機会とあって、チケットはあっという間にソールドアウト。それほど大阪の人たちは、中沢先生の話に熱望していたのだろう。「中沢先生はそろそろ名誉大阪市民に選ばれても良いのではないのでしょうか」。コーディネーターである釈徹宗先生の、サービス精神たっぷりの口上で講座はスタート。中沢先生を迎える大阪代表の対談相手として、今回は本誌編集発行人である江弘毅も加わった。「歴史を考える時、ふつうは鎌倉時代の次に建武の新政があって…と、事実を微分して順々につなげていく。でもアースダイバーは逆に、歴史を俯瞰して捉える。スケールが大きいのに、地元の僕たちの感覚にもびつと合うところがすごいと思うんです」と



左/ 釈先生は、「海民」「敗者」など大阪アースダイバーの鍵となるキーワードを挙げて鼎談をリード。

儀礼)を例に出し、かつて聖徳太子が生國魂神社の近くに住んでいたこと、その神社には豊臣秀頼の胞衣塚があること、そして漫才の祖と言われる横山エンタツ・花菱アチャコも神社の近くに住んだことなどから、「生と死を切り離す際には笑いが必要だったはず」という結論に。「見えないものをつないでいくと、思いがけないところに、地下水道のように通路が通っている」と、アースダイバー的思考の道筋を明かした。

講座の終盤、3人の話題はさまざまな人を受け入れてきた大阪の都市的性格の考察へと進んでいった。古代から大阪は、海を越えて自由に移動する海民など、あちこちからやって来る人たを受け入れる性格を持っていた。そこでは移り住んで来た移民と土着の人たちが、それぞれに折り合いを付けながら暮らし、ハイブリッドな文化を形成してきたのだ。大阪アースダイバーの主題の一つでもあった、こうした「大阪的原理」の大切さを中沢先生は強調する。「グローバルズムによって、人々は世界中を自由に動き回るようになった。でも、移民たちは土地に愛着を持たず孤立し、もともと住んでいる人たちからは尊敬も尊重も払われない。大阪が古代からずっと持ってきた精神が、世界中で起こっているこうした問題を考える時のヒントになる」。大阪らしさとは、大阪の良さとは何かを問い直す機会となったこの講座。今夏になるという『大阪アースダイバー』の発売が待ち遠しい。

## 第八話 時代の都市美。昭和37年の中之島の風景から

この航空写真をじっくりと見ていただきたい。昭和37年(1962)の中之島と、その南に広がる街並みを捉えたものだ。前回に取り上げた朝日新聞ビル(昭和43年)が建つ前なので、時間は前後してしまふけれど、是非ともこの写真は紹介したかった。何と壮観な都市の景観だろう。この写真を見れば、このエリアに新旧の大阪を代表する建築が集結していたことがよくわかる。いってみれば、大阪ビル・オールスターズの記念写真だ。

手前右手に一部だけ写っているのが昭和9年(1934)に竣工した新大阪ホテル。大阪の政財界が大阪の威信をかけて建てた本格的なホテル建築で、ゴシック風の豪華な外観は、長らく大阪における迎賓館の役割を果たしてきた。その左には戦前に建てられた3つの朝日ビル群。この写真の撮られた年から朝日新聞ビルへの建替え工事がスタートするので、時計塔の本社と朝日会館は最晩年の姿ということになる。

四ツ橋筋を挟んだ左手にひときわ大きく写るのが、昭和33年(1958)に建てられた新朝日ビル。全面をアルミパネルで覆った斬新な外観は、まさ



### 都市美を伝えて 朝日新聞と中之島の130年

その隣に建つのが住友ビルディング。モノクロの写真ではわからないが、竜山石という黄色がかつた石を用いた重厚な外観が特徴だ。住友家が昭和5年(1930)に完成させた悲願の本社ビルで、このために設計部門を社内設立、大阪建築界の重鎮であった長谷部鋭吉と竹腰健造が中心となって設計した。ちなみに新大阪ホテルも長谷部と竹腰が設計している。

その左奥に見える直方体のビルが、昭和37年(1962)竣工の新住友ビル。遠近法で小さく見えるが、実は当時大阪では最も大きい、新朝日ビルを

に新時代の建築と呼ぶに相応しい。そして中之島の南、土佐堀川の対岸に目を移せば、中央やや右に大同生命ビルディングが見える。大同生命ビルは大丸心斎橋店や関西学院などで知られるアメリカ生まれの建築家、W・M・ヴォーリスの設計で、大正14年(1925)に建てられた。垂直性を強調したネオゴシック風の高層ビルは、大正期大阪におけるランドマークとして親しまれた。その隣に建つのが住友ビルディング。モノクロの写真ではわからないが、竜山石という黄色がかつた石を用いた重厚な外観が特徴だ。住友家が昭和5年(1930)に完成させた悲願の本社ビルで、このために設計部門を社内設立、大阪建築界の重鎮であった長谷部鋭吉と竹腰健造が中心となって設計した。ちなみに新大阪ホテルも長谷部と竹腰が設計している。

その左奥に見える直方体のビルが、昭和37年(1962)竣工の新住友ビル。遠近法で小さく見えるが、実は当時大阪では最も大きい、新朝日ビルを



中之島フェスティバルタワー



提供/株式会社朝日ビルディング  
http://www.festivaltower.jp/

ずっと南側、写真右上のあたりは小規模なビルやまだ瓦屋根の木造が密集しており、中之島界隈がいかに先進的な都心であったかがわかる。写真提供/朝日新聞社史編修センター

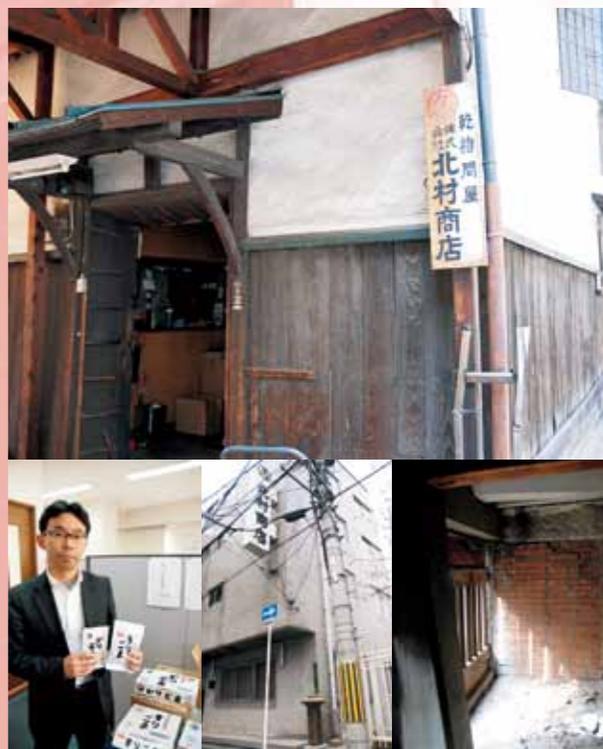
# ナカノシマニア

取材文／江口由夏(本誌)

## 堂

鳥川の北沿い、菅原町には戦災を免れた古い街並みも残る。その界隈でも一際目を引くのが、家3軒分ほどもある大きな土蔵。白壁に本瓦葺で、中之島に蔵屋敷が建ち並んでいた昔を思い浮かべてしまう。その蔵に掲げられた古めかしい看板には、丸に「久」の屋号と「乾物問屋 北村商店」の文字が。ふと見れば、斜め向かいのビルの社名と同じである。その歴史をたどるべく、北村商店を訪ねた。

大阪が「天下の台所」と呼ばれて物流と商業の中心であった頃、大規模な市場の近くには多くの商人が店を構えた。北村商店もそうして開業した問屋の流れを汲んでいる。江戸時代、久宝寺屋伝兵衛なる人物が八軒家浜近くで乾物の仲買業を営んでいた。詳細は明らかではないが、宝暦3年(1753)に乾物商の記録として刊行された文書に、取引業者として「久宝寺屋」の名があることから、少なくとも江戸時代後期には店があったことがわかる。明治21年(1888)、この久宝寺屋から分家創業し、菅原町にて開店したのが北村商店。丸に「久」の字の屋号は、久宝寺屋から取ったものだったのだ。



上/通称「一番蔵」と呼ばれる土蔵を始め、4つの蔵は現役。中には積み荷がぎっしり。下右/舟から下ろした荷物を保管していた地下蔵。こうした舟運の名残は、北村商店が保存に努めている。下左/「爆発的な売れゆきでなくても、日本人に根強い伝統食品がなくなることはないんです」と、常務取締役の押田敦史さん。

### 北村商店

ゴマを中心に幅広い取り扱いの乾物卸売問屋。商品の大部分は業務用に卸しているが、登録商標のいりごま「ひらげごま」や、オリジナル商品の糸寒天「ためして寒天」など、ナイスなネーミングの商品の店頭販売も。楽天市場などネット通販でも手に入る。  
☎06-6361-7101 <http://www.rakuten.co.jp/oq-kitamura/>

# 「天下の台所」の記憶を留める土蔵があつた。

かつてはびっしりと建ち並んでいた蔵も、再開発のために今はわずかばかりとなった。この蔵のように100年以上経った今でも使用されているものは特に貴重で、社会見学の小中学生や史料を求めて訪れる歴史研究家が後を絶たないそうだ。

常務取締役の押田敦史さんに、蔵の中を案内していただいた。ふだんは使われていないが、地下に通じる階段があるのだという。石段を下りてみると、堂島川に面した、舟から直接積み荷を上げ下ろしできる搬入口に行き着いた。また、今は埋め立てられてしまったが、

創業の頃は土蔵のすぐ横を堂島川から水を引いた天満堀川が流れていたそうだが、「うちの主力商品がゴマになったのは戦後すぐのことなんです。当時はゴマを川で洗い、干して売っていたんです」と押田さんが教えてくれた。本社ビル横には、天満堀川にかかつていた橋の碑があったりと、舟運と深く結びついていった時代の記憶が色濃く残っている。

## 水

に溶ける紙、天体を頼りに闇の中の方向を知る、紫色の水があら不思議透明になっていく……。子供の頃にかつて味わった、スパイや科学者になつたようなあの興奮。そんな少年心をくすぐってくれるのが大阪市立科学館だ。子供だけでなく、目を輝かせて学芸員のデモンストレーションに見入る大人をよく見かける。

### 続・中之島に「入会しませんか?」 「会員」のススメ。

取材・文/石原卓(本誌)

その大阪市立科学館のファンクラブとも言うべき「友の会」には、科学ファンや天体ファンが多数入会している。まるで少年探偵団かのような手作り感いっぱい会員証を手にした瞬間から、たとえ大人であっても科学少年への道は拓ける。入会すると、展示やプラネタリウムの入場料金が大幅に割引されたり、喫茶店での優待があるほか、科学情報満載の月刊誌『うちゅう』が自宅に届くのも魅力。科学分野のおもしろ実験から天体の動きの詳しい説明まで、わかりやすくまとめた素敵な会報だ。



こちらは友の会の「宇宙のおはなしサークル」の面々。老若男女問わず科学好きたちが集まる。会報誌『うちゅう』は、最新ニュースやイベント情報もたっぷり、毎月読み応えあり。



# 大阪市立科学館

永遠のサイエンス少年は、みんな科学館の「友の会」会員だ!

## 他

にも会員限定での月1回の例会が開催され、学芸員や会員たちによる科学のお話や星空ガイドが楽しめる。星の観測会には家族も一緒に参加できるチャンスもある。また、興味に応じた会員の中でのサークル活動も活発で、化学実験、天体観測から、ハイキングや英語の勉強サークルなど科学からスピンオフしているものまで、まさに百花繚乱。  
勉強というと堅苦しい。だが、未知のものを知るのには楽しい。あの科学少年だった頃の夢をずっと持ち続けるための魔法の会員証。それが大阪市立科学館「友の会」なのだ。会社に行く定期入れの中に潜ませておくだけで、まるでスパイになったようなワクワクする気持ちを味わってみてはいかがだろうか。

### 大阪市立科学館

友の会の結成は1984年。前身の四ツ橋・電気科学館時代から続く名門である。会費は年間3,000円で、中学生以上なら誰でも入会できる。また小学校5・6年生を対象にした「ジュニア科学クラブ」もある。それぞれ問い合わせは窓口にて。☎06-6444-5656 [http://www.sci-museum.jp/server\\_sci/tomo/tomo.html](http://www.sci-museum.jp/server_sci/tomo/tomo.html)

2012年5月1日発行



手づくり感が名物の中之島まつり「開催！」

昭和48年（1973）、中之島公園一帯の景観保存を目指して始まった中之島まつり。地元だけではなく京阪神から人が集まって作り上げる市民まつりとして、すっかり初夏の風物詩となった。41回目を迎える今年は人と人との「つながり」、ゼロから創り出すことに焦点を当て、これまでに



築いたネットワークを活かしながらよりいっそう手づくりの強いものになるよう。中之島公園全体を8つのゾーンに分けて展開する、スケールの大きなこのイベント。歌や踊り、パフォーマンスが繰り広げられるメインステージのある最も賑やかなエリア「まつりゲーション」をはじめ人が動かず大型遊具が人気の手づくり遊園地「冒険トラベリングゾーン」、地球環境のことを楽しく学べる発信の場「地球みつけリングゾーン」など、それぞれに工夫が凝らされている。

フリーマーケットで買い物を楽しんだり、屋台で食べ歩きをしたりできるほか、中央公会堂では自主制作映画が上映される第10回中之島映画祭も同時に開催。何かと楽しいことが集まるだけに、ゆっくり一日かけて満喫しよう。（江口由夏・本誌）

**第41回中之島まつり「つながり★つくリング」**  
日時／5月3日（木・祝）～5日（土・祝）  
10:00AM～4:00PM（5日～3:00PM）  
※雨天決行  
会場／中之島公園  
入場料／無料  
問い合わせ／中之島まつり実行委員会  
☎06-6367-6272  
http://www.nakanoshima.net/



淀川の歴史を 探る船旅

中之島を流れる堂島川や土佐堀川をさかのぼれば、淀川へと辿り着く。八軒家浜と枚方を往復する大阪水上バスの「淀川歴史探訪の旅」は、その淀川の舟運について、語り部による歴史解説を聞きながら楽しむクルーズ。ただ船に乗るだけではなく、明治時代より治水に大きな役割を果たす毛馬閘門の通過体験や、江戸時代の船待ち旅籠を利用して

造られた枚方の鍵屋資料館にも入館できる。船内では、江戸時代に船頭たちが唄ったという「三十石船唄」を聞くこともでき、かつての舟運に思いを馳せる時間となりそうだ。上りと下りの2コースがあり、上りは竹皮に包まれたおにぎりが懐かしい「道中べん」と、下りは枚方名物と言われる押し寿司「くらわんか鮓」と、お弁当が異なるので、お昼ご飯で選ぶのも楽しいかもしれない。この船旅は今秋にも予定されているので、春と秋の風景や気候の違いを楽しむのも良い。（江口由夏・本誌）

**大阪水上バス「舟運復活!! 淀川歴史探訪の旅」**  
開催日／5月12日（土）～28日（月）の毎週土曜・月曜日  
開航時間／上りコース:9:30AM 下りコース:1:00PM  
出航場所／上りコース:八軒家浜船着場 下りコース:枚方船着場  
参加費／4,800円（昼食・お茶・「鍵屋資料館」入館券付き）  
申し込み・問い合わせ／大阪水上バス予約センター  
☎0570-057771 http://suijo-bus.jp



今年もやります、シマの文化祭！

ABCホールで毎年開催されている「中之島春の文化祭」は、名前のとおりステージあり飲食テントあり野外ライブありのまさに文化祭。特に注目したいのは、関西を拠点に活動するパフォーマーたちが一堂に

会して繰り広げるステージ。漫才、演劇、ダンス、パントマイム…計30組の出演者が20分の持ち時間を自由に使って、パフォーマンスを競う。ステージ鑑賞前売り券はすでに売り切れた人気だが、両日共に当日券が

**中之島春の文化祭2012**  
期間／5月4日（金・祝）～5日（土・祝）  
時間／4日2:00PM～  
5日1:00PM～  
会場／ABCホール  
チケット／当日券2,000円  
（開演15分前より販売/全席自由）  
問い合わせ／ABCホール  
☎06-6451-6573  
http://asahi.co.jp/abchall/event/

用意されるとのこと。行きたい人は、当日早めに会場へ行く。ちなみに、屋外ステージの観覧は無料。イベントブースや飲食ブースもあるので、食べたり飲んだりしながら、川に面したウッドデッキで文化祭を満喫しよう。（江口由夏・本誌）



バラの季節が やって来た！

でもある天守閣は通常時よりも開館時間を延長しているのでも、ステージを楽しんだ後は、展示を鑑賞したり、最上階の展望台に上がってみるのも良いだろう。（江口由夏・本誌）



約310種という大阪一の品種数を誇る中之島公園のバラが、いよいよ見頃を迎えている。長らく地元の人たちに親しまれてきたバラ園は、中之島公園の整備とあわせて、2009年春にリニューアル。アジアで初めて開催されたバラの世界大会「世界バラ会議大阪大会2006」のシンボルであり、公募で名付けられた新種の赤バラ、その名も「ロース・オオサカ」があるなど、貴重な品種も多い。



多彩なステージと 大阪城の歴史を楽しむ

毎年ゴールデンウィークに開催される「大阪城ファミリーフェスティバル2012」は、大阪城が誇る歴史や文化に親しんでもらうためのイベント。天守閣をバックに造られた特設ステージでは、地元高校生による和太鼓パフォーマンスや、衣装も華やかなよさこい踊りなど、毎日違う



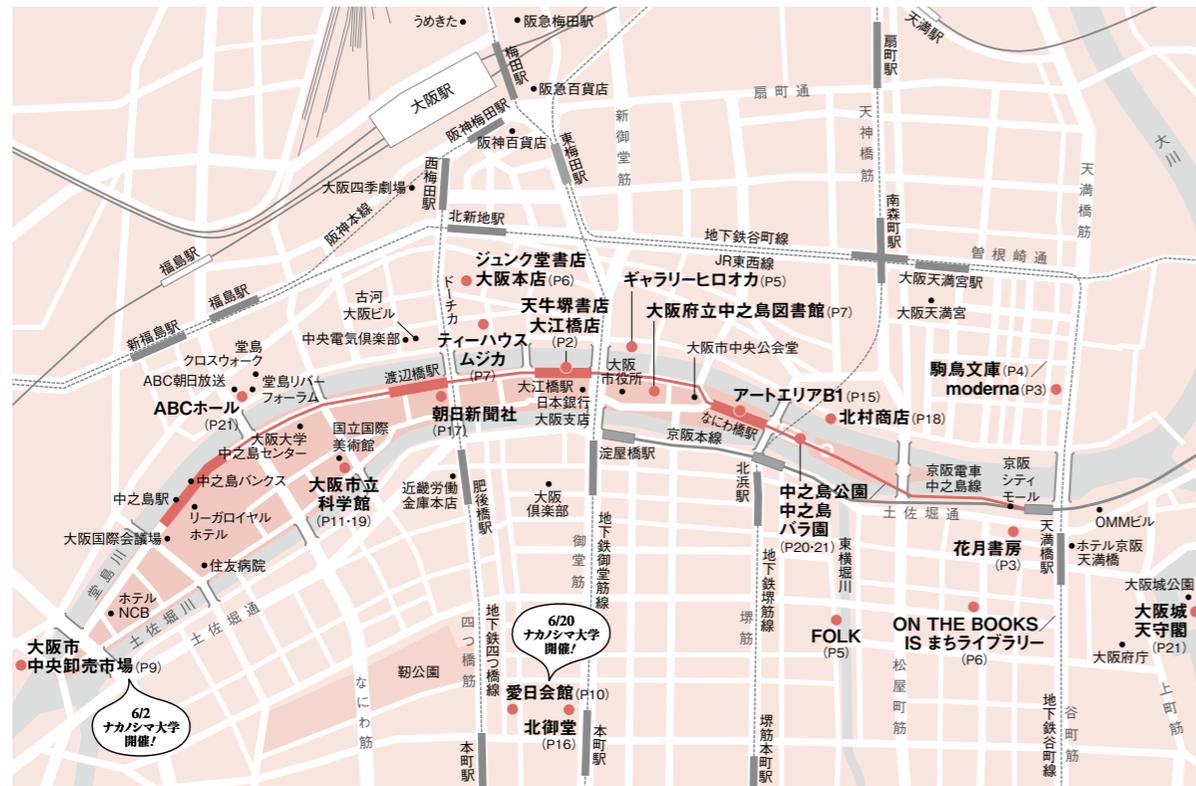
**大阪城ファミリーフェスティバル2012**  
日時／5月3日（木・祝）～  
6日（日）11:00AM～5:00PM  
※雨天決行  
会場／大阪城天守閣前本丸広場  
特設ステージ  
入場料／無料（天守閣入館は有料）  
問い合わせ／大阪城天守閣  
☎06-6941-3044  
http://www.osakacastle.net/



**中之島バラ園**  
一番の見頃は5月中旬頃。  
入園無料でいつでも見学できる。  
問い合わせ／  
大阪市北部方面公園事務所  
☎06-6312-8121  
（平日 9:00AM～5:30PM）  
（江口由夏・本誌）

# 大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、みんな「島民」です！



## 『月刊島民』はここでもらえます。

- 京阪電車関連 京阪電車主要駅/京阪シティモール/京阪モール/テリスタ天満橋店/ホテル京阪天満橋/ホテル京阪京橋
- 大阪市北区・中央区・福島区 [書店] 旭屋書店 梅田地下街店/旭屋書店 堂島地下街店/カペラ書店/紀伊国屋書店 本町店/ジュンク堂書店 大阪本店/ジュンク堂書店 梅田ヒルトンプラザ店/ジュンク堂書店 天満橋店/MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店/スタンダードブックストア/天牛塚書店 大江橋店/ブックファースト 梅田店/ブックファースト 淀屋橋店/文芸堂書店 淀屋橋店/隆祥館書店
- [公共施設・大学関連施設など] アイスボット/朝日カルチャーセンター/味の素 食のライブラリー/ABC朝日放送/大阪企業家ミュージアム/大阪倶楽部/大阪工業技術専門学校/大阪国際会議場/大阪市中央公会堂/大阪市立中央図書館/大阪市役所市民情報プラザ/大阪城天守閣/大阪商工会議所/大阪大学中之島センター/大阪21世紀協会/大阪府立中之島図書館/大阪フィルハーモニー会館/大阪ボランティア協会/大阪歴史博物館/追手門学院 大阪城スクエア/関西学院大学 大阪梅田キャンパス/慶應リバーサイドキャンパス/国立国際美術館/CITY NAIL'Sインターナショナルスクール/芝川ビル/市立住まい情報センター/中央電気倶楽部/ホテルNCB/メック屋敷
- [店舗・医院など] アリアスカ マーブル/アンドール 本町本店/上町貸自転車/Ultra 2nd/江戸前料理 志津可/EXPO CAFE/MJB珈琲店/大西洋服店/000(オー) /カセタ/喫茶センター/喫茶 SAWA/グランドシート中之島/黒門さかえ/コモンカフェ/サトウ花店 中之島本店/ザ・メロディ/じろう亭/Grond's JR/心斎橋山田兄弟歯科/住友病院/セインレフン大阪証券取引所店/タビエスタイル/ティーハウスムジカ/たまわね鍼灸整骨院/東郷歯科医院/NAKAGAWA1948 淀屋橋店/ナンジャーノ/パストラーレ/花かつ/BAR THE TIME 天神/平岡珈琲店/ヒルマニアカフェ/フレイムハウス/ミニシロー/宮崎歯科/やきとりばかや/吉田理容所/ラックカーニャ/LES LESTON
- 大阪市内その他 [書店] 伊勢屋書店/大阪書店/紀伊国屋書店 京橋店/なんばミヤタ/福島書店/柳ヶ堂/ループル書店 [公共施設・大学関連施設など] 大阪市社会福祉研修情報センター/大阪市立図書館 [店舗・医院など] あじさい/アートアンドクラフト/吹風堂 ミリパール/大阪市信用金庫 江戸堀支店/御舟かもめ/Calo Bookshop and cafe/写真とプリント社/鳥かこキッチン/ネイルサロン スワンナ/バルビコ/ホステル64オオサカ/MANGUEIRA/Loop A
- 大阪府下 旭屋書店 京阪守口店/学運堂 フレスト店/Books 呼文堂/水嶋書房 くずはモール店/水嶋書房 くずは駅前店/大阪狭山市立図書館/大阪大学企画部広報・社学連携事務局/大阪大学 21世紀情報堂/大阪大学本部/寝屋川市役所/摂南大学 地域連携センター/郵政考古学会/ゆったりんこ
- 大阪府以外 ジュンク堂書店 西宮店/水嶋書房 丹波橋店/伊丹市文化振興財団/大手通りストリートギャラリー 街・発信/納屋工房/タバーン・シンブロン/百練/奈良県立図書館情報館

## ◎バックナンバーお譲りします。

バックナンバーをご希望の方は1冊100円(手数料)でお譲りしています。なお、品切れの号もありますが、予めご了承ください。お問い合わせは下記の電話番号まで。

## ◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。まずは下記の電話番号までお問い合わせ下さい。

## 次号予告 大阪の「ウェストゲート」を旅する。

中之島の西端からすぐの西区川口。かつては大阪の玄関口として賑わった。最近、新しくアトスポットが誕生した江之子島と合わせ、歩いてみよう。

●『月刊島民』vol.47は2012年6月1日発行です！

編集・発行人/江 弘毅 (編集集団140B)  
 編集・発行/月刊島民プレス  
 若狭健作 網本武雄 (株式会社 地域環境計画研究所)  
 松本 創 大迫力 (編集集団140B)  
 〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階  
 Tel 06-4799-1340 Fax 06-4799-1341  
 制作進行/堀西 賢 (ALEGRESOL)  
 デザイン/山崎慎太郎  
 表紙イラスト/奈路道程  
 印刷/佐川印刷株式会社

## かもめ船長の 水辺航海日誌

五月〇八日

### 「船長ルック」はむずかしい。

#### 春の橋の上。

中之島の橋を日中ぐるぐるするのは、不思議な感覚がある。ビジネスマンの方々が猛スピードで歩きながら、右へ左へ橋の上を行き交っている。その下をユルユルと船で行く、というギャップ。罪悪感というか優越感というか、言葉では説明しにくい心持ちになる。でも、そういう感じがちょっと面白いので、ついつい水辺の人並みを眺めてしまう。春になると、そんな人の流れの風景が変わってくる。まず数が増える。その街ゆく人の服装が日に日に変化する。春も始めの頃は新人さんだろうが、リクルートスーツ姿の集団がドドドと進む場面を見るが、気がつけばその黒いスーツの数が減り、コートを着ていない人が増え、知らぬ間に街ゆく人並みも明るくなったなあと思う日が、晩春になると必ずある。



### 意外と気を使う。

船上の我々も、春は一番服装が変化する。昼夜の寒暖の差の激しさ、春の嵐のような天気の変化。北風の日もあれば南風の日もある。日々の変化もそうだが、1日の間にジャンパーを脱ぎ、レインコートを着、また脱ぎ...



船に積む荷物は、少なければ少ない方が良いに決まっているので、こういう時期が一番困ってしまう。それに機能ばかりじゃなくて、やっぱり「川に浮かぶ小さな家」を名乗る当方としては、似つかわしい雰囲気的身なりをしたい。「制服とか作ればいいのに？」などと聞かれることもあるが、弱小舟運業者にはとてもそんな余裕はない。ファッションに疎い僕にとって船長の服装はなかなか解決できないでいる問題のひとつだ。

### 「ルック」

マリルックというものがあってもいいか、と思いつき、一度手にしようとしたこともある。ちょっとした値段のデッキッシュを試ししてみたが、僕はまだそれに釣り合うだけの人生経験が足りないな、という残念な感じだった。違和感はそのだけではなかった。その靴は、やっぱり「マリルン」であって「リバー」や「アイランド」ではない雰囲気な気がした。たぶん僕が将来成熟した大人になっても中之島のクルーズにびたつと来ることはな

### 日射しの影響。

水面が光を反射するので、船から見る景色は光の具合によってずいぶん印象が変わる、ということ。クルーズ中によくお話しする。特に今の季節は、日射しの具合も夏に向かって日々変わっていくから、街並みの輪郭がどんどんシャープになっていくのは面白い。

日射しが増える影響は、もちろん外の景色だけではなく。桜が散る頃には、僕の顔は世に先駆けて、うっすら日焼けするし、意外にも服が日焼けして色あせる。僕の船は屋根から上半身を出して操縦する形状になっていて、肩から上が集中的に焼ける。濃い色の服などは肩から上と下で、けっこう差がわかるほどになる。「いやあよく仕事したんだなあ」などと言いつつ、貧乏性で捨てられずにいる。こういう調子だから、クルーズのファッション問題は解決しそくない。



中野弘巳  
なかのひろみ  
中之島をはじめ、大阪の水辺をクルーズする  
小さな遊覧船「御舟かもめ」船長  
http://www.ofune-camome.net/